

遠い南の島より



職場にて市町村から派遣されている同僚と（左端）

profile

沖縄県企画開発部地域・離島振興局
市町村課

大川 亜沙奈

平成15年 4月 総務省採用

平成15年 8月 現職

○はじめに

私は平成15年4月に総務省に入省して、4ヵ月後の8月に沖縄県に赴任しました。飛行機を降りて、青い空とまぶしい太陽を見たとき、沖縄に来たんだなあと感じたことを覚えています。早いもので沖縄に来てから半年近く経ち、今では総務省よりも沖縄県庁で働いている期間のほうが長くなりました。総務省での仕事について話すことはできないので、沖縄県での仕事・生活を中心にお話したいと思います。

○沖縄県での仕事・生活等

沖縄県では市町村課財政係に配属されています。市町村課は、市町村の行財政全般に関わる事務について、適正に行われているかをチェックしたり、時には市町村の相談を受け、アドバイスをするというようなことをしている課です。今までに私が関わった仕事は、交付税検査（実際に市町村に行って交付税額が正しく見積もられているかを検査）、第三セクターの状況に関する調査（第三セクターの経営状況等に関するもの）の調査や、毎年発行する市町村行財政概況の取りまとめ、市町村財務会計研修会の講師等です。その他、疑義照会等、随時市町村の相談に応じています。市町村課の回答が市町村の業務に影響を与えるので、担当者には自分の出した回答に対して責任があります。一年目とはいえ、分からないという訳にはいきませんので、

地方自治法等の資料を参考に、悪戦苦闘しながら対処しています。

困難なことも多いですが、さまざまな仕事を通じて、地方自治の最前線である市町村の業務の円滑化に貢献できることが、市町村課での仕事の魅力だと考えています。何もかも初めてで、分からないことばかりですが、周りの方々に助けていただきながら、頑張っているところです。

市町村課の特徴としては、市町村から派遣されてきた研修生が多くいるということです。住民に一番近い市町村で仕事をしている方々から、市町村合併や三位一体の改革等、これからの国と地方のあり方についてどう考えているかを聞くことができ、とても勉強になります。県庁職員だけでなく、市町村の職員とも親しくなれるということは、霞ヶ関にいてはなかなかできないことです。国と地方の両方で働くことができるということは、総務省の特徴でもあり、魅力でもあると思います。

アフターファイブや、土日などのように過ごしているかということについてですが、平日は基本的に飲み会が多いです。基本的にオリオンビール1〜2杯→泡盛です。日本酒、ワインは飲まないようです。食べ物も基本的にゴーヤーチャンプルー、沖縄そばなどの沖縄料理が中心です。食生活は他の県と比較してかなり違いがあるといえます。土日とも職場の人や、友人と一緒に海辺でバーベキューをしたり、飲みに行ったり、県

内を観光したりして楽しく過ごしています。

ある時は、広大な面積を占める米軍基地の存在等、特殊な事情が多い沖縄県のこれからのあり方を考え、またある時は、何も考えずに南国沖縄の自然を満喫したりと、「よく学び、よく遊ぶ」という生活を送っています。沖縄県にいるのは限られた期間なので、その中で多くのことを学び、吸収していきたいと考えています。

○おわりに

～総務省に関心がある方々へ～

私が官庁訪問をしたのは2年前になります。最初から総務省に一番行きたかったというわけではなく、いくつか興味のある官庁の一つという感じでしたが、事前の説明会や、官庁訪問を通じて、いろいろな方と会って話をするうちに、ここで働きたいと思うようになりました。最終的に総務省に決めた理由は、人間的に魅力のある人が多いということです。

官庁訪問前にできるだけ多くの官庁・企業を回って、ここで働きたいと思えるところを見つけることが大切だと思いますので、総務省を含め、いろいろな人と会って話を聞いて下さい。総務省で共に頑張ろうという方々とお会いできるのを楽しみにしています。